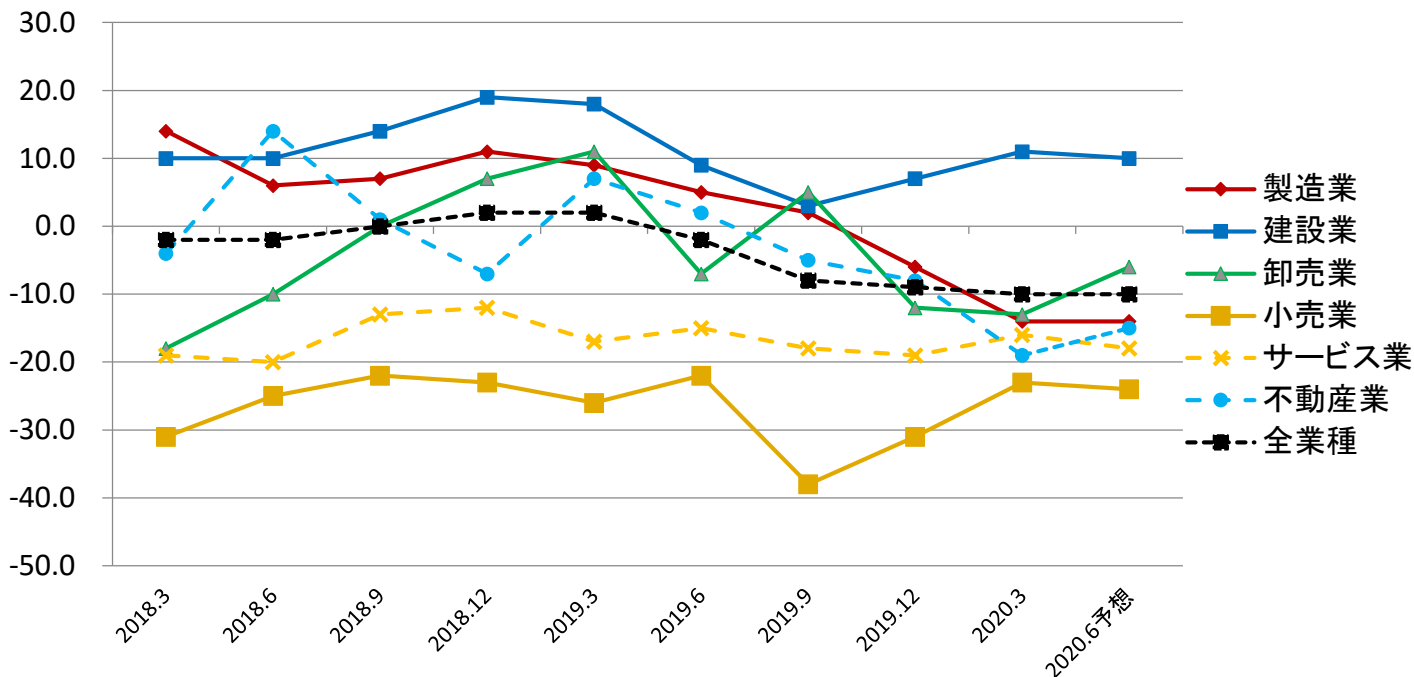


福生市商工会 経営だより

1. 多摩地域の小規模企業業種別業況判断DIの推移



※製造業・建設業は19人以下を、卸売業・小売業・サービス業は4人以下を小規模企業としています。
出典：多摩信用金庫 多摩けいざい No.92

2. 業況判断DIの分析

※上記DIは4月発行の数値であり、コロナ禍の影響をあまり含んでいません。

全業種でみると前期から1ポイントのマイナスで4四半期連続の後退となっています。業種別にみると建設業が4ポイント、小売業は8ポイント、サービス業は3ポイント回復しましたが、小売業は低い水準で推移しています。一方卸売業はほぼ横ばい、製造業は10ポイントと大幅な低下がみられ不調に転じています。コロナの影響を考えると全業種が回復するのは、まだまだ先です。しかしながら緊急事態宣言解除後、少しずつですがモノとヒトが動き始めています。

3. 中小企業診断士の一言

3月から日本にも新型コロナウイルスの猛威が襲いかかっています。3月から4月にかけては世界の産業が停止し、材料の供給がストップするなど大きな影響が出ました。日本では3密（密集、密接、密閉）を避けるための取組みとして、在宅勤務や交代勤務などの工夫が取られています。4月からは全国で緊急事態宣言が発出されました。国からは持続化給付金、雇用調整助成金、家賃支援給付金などが発表され、東京都からは感染拡大防止協力金や理美容事業者の自主休業に係る給付金なども発表されました。福生市では福生市事業継続応援金や事業者向けよろず支援相談専用ダイヤルなどを設け、事業者の応援をしています。困ったときは商工会にご相談ください。

4. 主要業界のトレンド

【全体】

新型コロナウイルスの猛威により、各業種で活動が縮小され、徐々に再開されつつあるものの、首都圏での感染者数の再増加などから完全な回復とまでは程遠い状態です。3密を避けるために在宅勤務に切り替えオフィススペースを縮小する企業がある一方で、出勤時の密接を避けるため、ひとりひとりの距離が取れるようにオフィススペースを拡大する企業も出てきています。

【製造業】

以前油性マジックペンの形に似た入れ物に“ふりかけ”を入れて発売したメーカーが、今度はアラビックヤマト（文房具のり）の容器に、はちみつを入れた「はちみつアラビックリ!?ヤマト」を発売しました。発端は単なるシャレですが、マッチングされたメーカーは各々の宣伝にもなります。まったく異なる業界であってもマッチングすることでなんらかの付加価値を得ることができます。製品開発の参考にしてみてもいいのではないでしょうか。

【サービス業】

非対面型のサービスが増えています。スポーツジムなどはコロナで大きな影響を受けていますが、オンラインを活用した講座などで逆に全国から集客ができるようになるなど、工夫を凝らして新しいビジネスの形を模索している状態です。顧客自身が機器などを購入もしくはレンタルし、その使用方法をオンラインで教えるなどのビジネスモデルが構築されてきています。

【小売業】

コロナ禍で対面販売が敬遠され、今まで利用していなかった人もインターネット通販を使用することで便利さを知ってしまった人が結果的に多くなりました。緊急事態宣言解除後は、百貨店の開店を待ちわびた利用者が報道されていましたが、地域の小売店では利用客が減少し続けています。今後はリアルに会える場としての価値が高まってくることが予想され、品揃えではなくその店でしか味わえない会話や情報などがより大きな個店の魅力となっていきます。個店独自のイベントなどで集まるきっかけを作ってみてはいかがでしょうか。

【建設業】

外出禁止などで工事が一定期間止まりましたが、緊急事態宣言解除後は徐々に現場が動き始めています。公共工事などは完成時期をずらすことが難しいことから、綿密な作業計画が必要となってきます。またコロナの関係で体調管理がより厳格化され些細な体調の異変でも現場全体の罹患リスクを考えると休ませなくてはなりません。基本的な体調管理が出来るよう会社としての準備を進めましょう。

5. 小さな企業の新たな取組みのためのヒント

今後はwithコロナと称されるようにコロナと共存しなくてはなりません。そのためには顧客リストを作り、企業側から積極的に顧客にアプローチするとともに、感染対策や独自のおもてなしで、来てよかった（取引してよかった）と思わせる仕組みを作ることが重要です。コロナ時代の新しい取組みに対する補助金として小規模事業者持続化補助金（コロナ型）があります。補助金上限額は100万円となっています。どのような取組みが該当するのかなど商工会にお尋ねください。